



がんセンターたより

平成24年度を迎えて

総長 小林 理

がんセンターには4月から医師25名、看護師40名、放射線技師7名、検査技師1名、薬剤師2名、管理栄養士1名、事務7名の83名がメンバーに加わりました。よろしくお祈いします。当院の使命はがんの高度・専門医療の提供です。また、当院はがんを治すだけでなく、がんの治癒を目指すのが使命です。治すだけでなく癒しを加えてはじめて当院の役割が果たせたものとなります。慈しみとハーモニーにあふれた病院作りに一緒に取り組んでいきましょう。

医療の現場では各種の国家資格を持った専門家によるチーム医療が行われます。このチーム医療の充実が質の高い医療の提供のキーワードとされています。皆さん一人ひとりの働きが神奈川県立がんセンターの医療の質を高め、その結果、多くのがん患者さんを救い、がん医療の推進をもたらすこととなります。協調性をもって、お互いの仕事を理解すると共に尊重し、患者さんや家族と一緒にがんと戦ってください。がんが苦しむ患者さんに高度で心あたたかい医療を提供して、がんの苦しみから開放してあげるといがんセンター職員の共通の願いに向かって職員一同ベストを尽くして下さい。

さて、独法化した一昨年度は診療報酬のプラス改訂の影響もあって、収支がプラスとなり、診療で得られた利益は医療機器の整備を通して患者さんに還元することができました。昨年はリニアックの更新のため、大幅な収益減が試算されました。しかし、平均在院日数の短縮や高額手術の増加、包括外化学療法増加等による一人当たりの単価が増え、入院収益は増加し、放射線治療料の減額を上回る収益を得ることができました。1月からは高精度放射線治療装置が稼働し、患者数も回復傾向にありますので、県民負担ゼロを目指した皆さんの今後の活躍を期待しています。

新病院は来年11月にオープンします。また、その2

年後には重粒子線治療も開始予定です。重粒子線治療施設を併置したがん専門病院は世界初となります。県の財政が危機的状況にある中、神奈川県民のご理解によって神奈川県立がんセンターは世界一のがん治療施設へと整備されますので、この施設を有効に活用することが職員に求められます。そのためにがんセンター職員は、リサーチマインドをもって業務を行い、様々なリサーチアクションを導き出し、経営企画会議で検討し、業務の改善を行い、成果を出していきましょう。今年度から経営企画会議はセクション長の承認があればすべての職員が出席可能とするなど運営方法を見直しましたので活発で前向きな議論を期待しています。独法化後は、職員の病院経営への責任感が格段に高まり、自主、自律の確立を目指した意識改革や業務改革が行われていますが、さらに、リサーチマインドを持つことによって「変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵」を涵養していきましょう。

在院日数の短縮により、入院時の業務量が格段に増えている状況の中、月曜入院の患者さんが50名以上となる日があたりまえになっているように、看護局を中心にがん患者さんを一人でも多く受け入れられるよう業務改善は着実に進んでいます。一方、団塊の世代ががん年齢に達した現在、がん患者数の増加が試算される中、がんセンターの新たな取組みを検討する必要がありますので、経営企画会議の中で議論していきたいと思ひます。新たな取組みとしては、4次検診とも呼ぶようながんから生還した患者さんに対する健診を含む「がん検診」、地域医療機関とのさらなる連携や広報活動の充実を目指した「がん臨床講座」、そして「在宅医療の推進」などを考えています。「がん検診」に関してはがん完治後の有効なfollow-upシステムの構築を専門病院の立場から目指します。「がん臨床講座」は、がんの予防や検診等の教育も含め、小さなコミュニティや会社・学校などに出張して、医療機関・医療従事者以外を対象にした講演も考えています。職員の皆さんの知人・家族の職場や学校からの要望にも答えていきたいと思ひます。「在宅医療の推進」も含め、これからのがんセンターは地域にかけける取組みを導入してがん専門病院としての役割を果たせるよう努力していきたいと思ひます。

最後に、春の高校野球の選手宣誓にありました「届けます、笑顔」をがんセンター職員も忘れずに実践しましょう。今年一年よろしくお祈いします。

新任の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。
紙面の都合上、採用・就任された幹部職員、医師、看護科長、放射線科長、重粒子線治療施設整備室長、医療相談支援室長、の紹介に限らせていただきました。
どうぞよろしくお願いいたします。

幹部職員

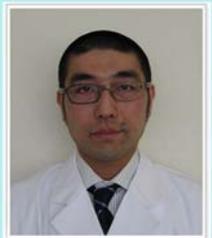


事務局長
西海 昌樹



副看護局長
金澤 尚子

常勤医



乳腺内分泌外科
医 長
中山 博貴



婦人科
医 長
松橋 智彦



病理診断科
医 長
河内 香江



腫瘍内科
医 師
渡辺 玲奈



脳神経外科
医 師
岩田 盾也



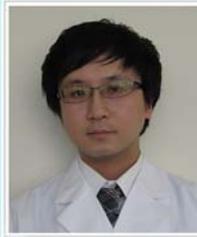
消化器外科
医 師
岩崎 謙一



消化器外科
医 師
沼田 正勝



放射線診断科
医 師
川口 将司



放射線診断科
医 師
藤田 亮

任期付常勤医



呼吸器外科
医 師
禹 哲漢



呼吸器外科
医 師
今井 健太郎



血液内科
医 師
大草 恵理子



腫瘍内科
医 師
高橋 寛行



頭頸部外科
医 師
木谷 洋輔



頭頸部外科
医 師
佐藤 要



消化器外科
医師
白井 順也



消化器外科
医師
沼田 幸司



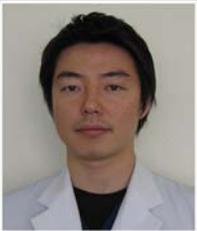
消化器外科
医師
澤崎 翔



婦人科
医師
飯田 哲士



泌尿器科
医師
水野 伸彦



骨軟部腫瘍外科
医師
関屋 辰洋



放射線腫瘍科
医師
塩見 美帆

医療技術部



放射線治療技術科
科長
日置 稔



放射線診断技術科
科長
坂田 幸三

看護局



看護科長
古矢 尚子



看護科長
清水 奈緒美

放射線治療
品質保証室



放射線治療
品質保証室
室長
蓑原 伸一

医療相談支援室



医療相談支援室
室長
得 みさえ

レジデント
(第26期生)



医師
今村 奈緒子



医師
佐藤 到



医師
杉本 恵菜



医師
村田 一平



医師
渡部 真人

入院患者満足度調査の結果をご報告いたします

当院では平成 23 年 11 月に患者満足度調査を実施いたしました。ご協力をいただいた皆さまにお礼を申し上げます。

実施期間 平成 23 年 11 月 1 日
 〃
 平成 23 年 11 月 28 日

ここに、調査結果の一部をご報告させていただきます。

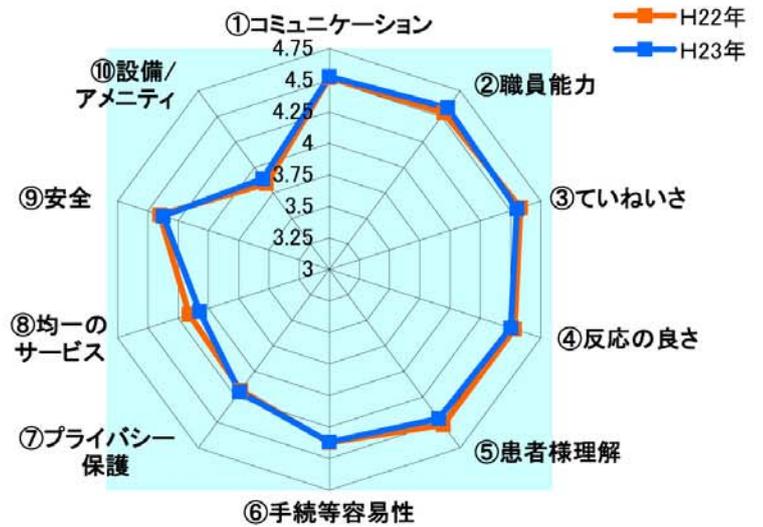
回答数 306 件

1.) 総合的な設問

医療サービスとして重要な10の項目について伺いました。

全国標準と比較して、10段階中 6 以上の評価をいただいた項目は、下の設問が水色で表示されています。

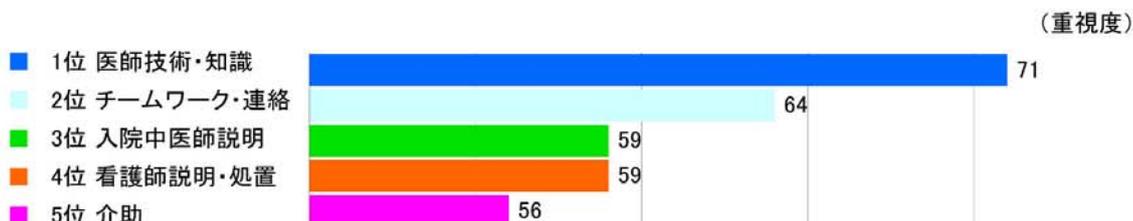
職員の取り組みや努力を皆さまに評価していただけたことを、大変うれしく思います。



- ①コミュニケーション…医師や職員は、聞き取りやすく、わかりやすい言葉で説明しましたか
- ②職員能力…医師や職員は、必要な技術と知識を身につけていますか
- ③ていねいさ…医師や職員は、礼儀正しく、親切で、ていねいでしたか
- ④反応の良さ…医師や職員は、患者さまの希望をできる限り取り入れようとしたか
- ⑤患者様理解…医師や職員は患者さまの気持ちを理解しようとしたか
- ⑥手続容易性…入院前や入院中のさまざまな手続はうまくいきましたか
- ⑦プライバシー保護…入院中のプライバシー保護は充分でしたか
- ⑧均一のサービス…院内のどこでも、どんな時でも同じようなサービスを受けることができましたか
- ⑨安全…入院中は安全に医療サービスが行われていると感じましたか
- ⑩設備/アメニティ…入院中の設備や環境は快適でしたか

2.) 皆さまが重視されていること

皆さまが、重視していることを分析し上位5位までをグラフにしました。

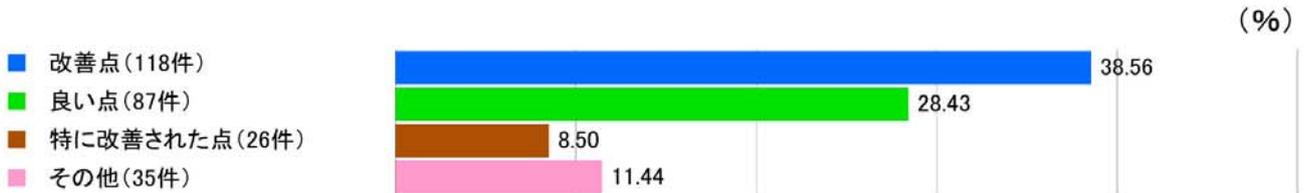


3.)皆さまの自由記述

改善すべき点、良い点、特に改善された点について、ご意見や評価をいただきました。

良い点、特に改善された点については、次のような評価の言葉をいただき、大変、うれしく思います。

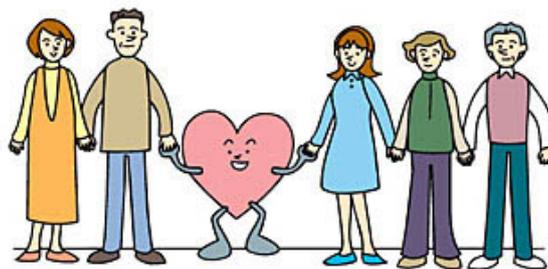
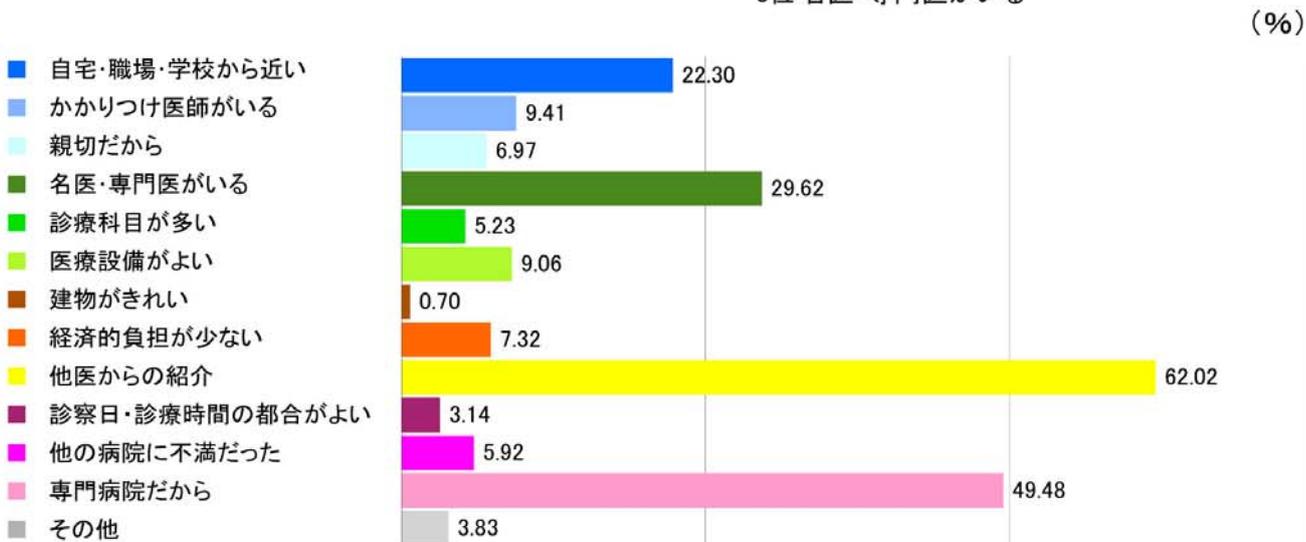
医師、看護師が、親切、丁寧。笑顔もあり、安心して入院生活を過ごすことが出来た。食欲がない時、無理しないで良いよ！と言われ、うれしかった。



4.)皆さまが当院を選択した理由

皆さまが当院を選ばれた理由を伺いました。

1位 他医からの紹介
2位 専門病院だから
3位 名医・専門医がいる



外来患者満足度調査の結果をご報告いたします

実施期間 平成 23 年 11 月 14 日

平成 23 年 11 月 17 日

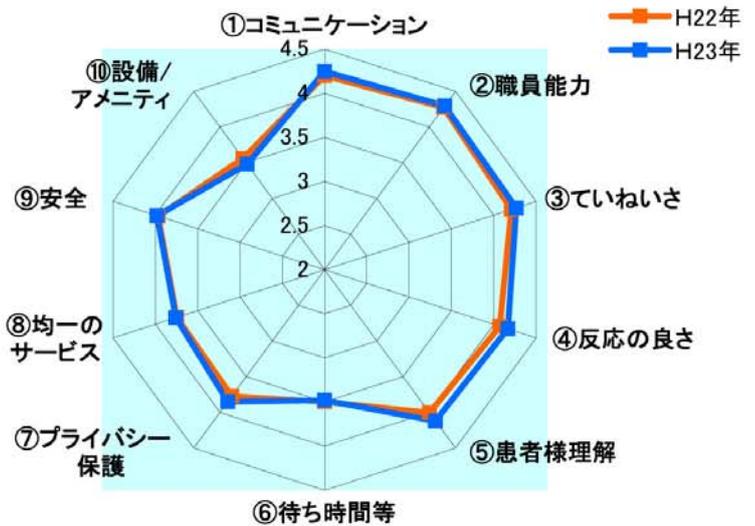
回答数 836 件

1.) 総合的な設問

医療サービスとして重要な10の項目について伺いました。

全国標準と比較して、10段階中 8 以上の評価をいただいた項目は、下の設問が水色で表示されています。

職員の取り組みや努力を皆さまに評価していただけたことを、大変うれしく思います。



- ①コミュニケーション…医師や職員は、聞き取りやすく、わかりやすい言葉で説明しましたか
- ②職員能力…医師や職員は、必要な技術と知識を身につけていますか
- ③ていねいさ…医師や職員は、礼儀正しく、親切で、ていねいでしたか
- ④反応の良さ…医師や職員は、患者さまの希望をできる限り取り入れようとしていましたか
- ⑤患者様理解…医師や職員は患者さまの気持ちを理解しようとしていましたか
- ⑥待ち時間等…電話応答、診療まで、検査まで、会計までなどの待ち時間は許容の範囲ですか
- ⑦プライバシー保護…院内のプライバシー保護は充分でしたか
- ⑧均一のサービス…院内のどこでも、どんな時でも同じようなサービスを受けることができましたか
- ⑨安全…院内では安全に医療サービスが行われていると感じましたか
- ⑩設備/アメニティ…院内の設備や環境は快適でしたか

2.) 皆さまが重視されていること

皆さまが、重視していることを分析し 上位5位までをグラフにしました。

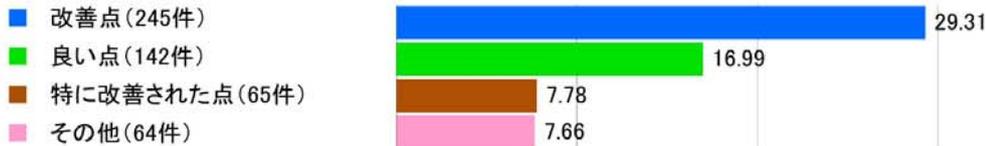


3.)皆さまの自由記述

改善すべき点、良い点、特に改善された点について、ご意見や評価をいただきました。

良い点、特に改善された点については、次のような評価の言葉をいただき、大変、うれしく思います。

広さも、患者にとって、歩いて検査室や採血やらまわるのに、よく分かり、助かる広さです。スタッフすべてがプロで、患者さんはいつも安心して来院出来ます。

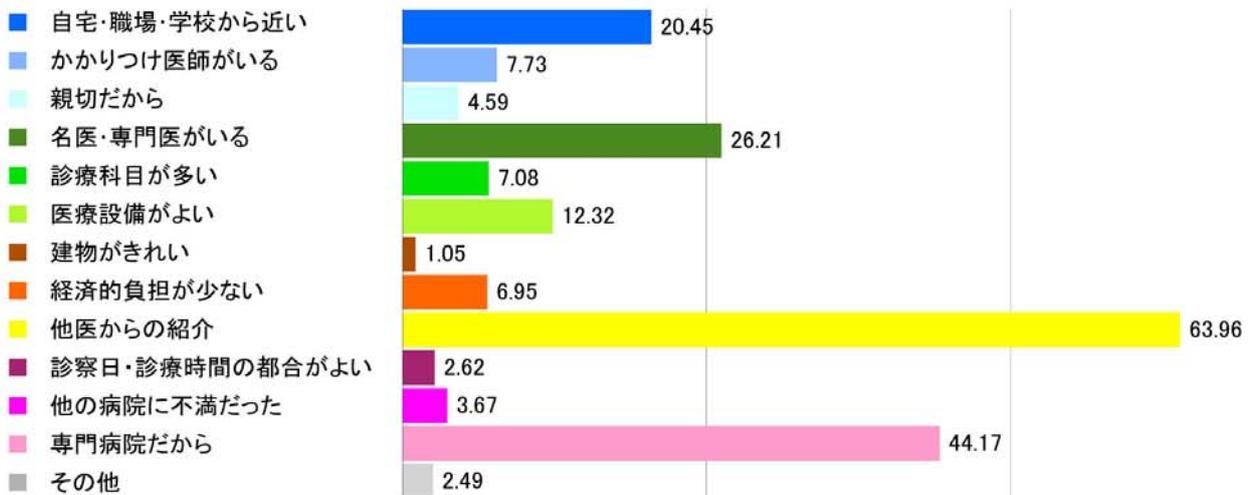


(%)

4.)皆さまが当院を選択した理由

皆さまが当院を選ばれた理由を伺いました。

1位 他医からの紹介
2位 専門病院だから
3位 名医・専門医がいる



(%)

まとめ

今回の調査を通じて、皆さまからいただきました評価、お叱り、励ましを全職員で共有し、今後ともより良い病院づくりに取り組んでまいります。皆さまには、お手数をおかけしますが、調査等へのご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。また、日常でもお気づきの点がありましたら、サービス向上へのアドバイスをいただきたいと思います。

がんセンターの総合整備について

平成23年7月に着工した新がんセンターの建設工事も順調に進んでおり、平成25年11月のオープンまで約1年半となりました。そこで、がんセンターの総合整備について皆様に改めてご紹介いたします。

1 新がんセンターの整備方針

(1) 外来待ち時間の短縮、待機患者の縮減

外来診察室を32室から56室に、外来化学療法室を24床から50床に、手術室を6室から12室にするなど増室(床)し、外来患者さんの待ち時間の短縮等を図っていきます。

(2) 高度、最新のがん医療の充実

リニアック4台の設置や最新のCT・MRIの導入、無菌病棟・緩和ケア病棟の増床などにより高度、最新のがん医療を充実させていきます。

(3) 療養環境の改善

大部屋はゆとりある4人部屋とし、シャワーやトイレを完備した個室も68室から115室に増室します。

そのほか、都道府県がん診療連携拠点病院の規範となる病院、患者に優しく質の高い医療の提供を整備方針としています。

【新病院と現病院の比較】

	新がんセンター	現がんセンター	備考
病床数	415床	415床	
延床面積	51,379.36㎡※	33,233.06㎡	※駐車場等を含む
敷地面積	37,425.56㎡	18,276.30㎡	
手術室	12室	6室	・手術待ち患者の減少
外来	診察室56室 外来化学療法室50床	診察室32室 外来化学療法室24床	・待ち時間の短縮 ・患者サービス充実
放射線治療	リニアック4台	リニアック2台 マイクロロン1台	・放射線治療の充実

2 新がんセンターの配置

新しいがんセンターは、敷地内に「病院棟」、「管理・研究棟」、「駐車場棟」、「重粒子線治療施設」などを設置します。病院棟は、地下1階に放射線治療や核医学部門、1階に各種検査、2階に外来診察室、3階に手術室やHCU病棟、4～7階に各病棟などを配置します。



3 建設工事の進展状況

現在、病院棟1階部分の躯体工事が進んでいます。建設工事は平成25年8月に完了する予定です。また、建設敷地内に病室(4人部屋、個室)とスタッフステーションのモデルルームを設置しました。図面だけの検討に比べて実際の使い勝手を確認することができるので、より詳細な検討ができます。このような検討を進め、患者さん・スタッフにとってより望ましい環境を目指します。

【建設現場の写真(平成24年3月末)】



【モデルルーム】



4 重粒子線治療施設「i-ROCK」の整備

平成24年1月に株式会社東芝と重粒子線治療装置の製造に関する契約を締結し、平成27年12月の治療開始を目指して、重粒子線治療施設の整備を進めています。また、重粒子線治療施設の愛称を「i-ROCK(アイロック)」と名付け、広報活動などで活用しています。i-ROCKは「ion-beam Radiation Oncology Center in Kanagawa」(「神奈川県放射線腫瘍センターの重粒子線治療」)から名付けました。

新がんセンターでは、病院棟でのX線による放射線治療とあわせて、総合的な放射線治療を充実させていきます。(新がんセンター総合整備室)

「医療安全週間」について

医療安全推進室 岸 ひろみ

厚生労働省は、平成13年度から、「患者の安全を守る共同行動(P S A)」の一環として、医療機関や医療関係団体などの取り組みを推進しています。また、これらの取り組みについて、国民の理解や認識を深めていただくことを目的として、11月25日(「いい医療に向かってGO」)を含む1週間を医療安全推進週間と位置づけ、医療安全対策の推進を図っています。私たち医療者は、常に安全に心がけていますが、昨今、患者誤認防止や、転倒転落予防をはじめとして、医療者だけで事故を防ぐことは困難であり、患者さんご家族の協力なくしては、患者さんの安全は守れなくなっていると感じています。

当センターでは、患者さんご家族に、がんセンターの医療安全の取り組みに関心を持っていただき、医療安全への理解と協力を得ることを目的に、平成22年度に第1回目の医療安全推進週間を実施しました。第1回目は「私たちの医療安全の取り組みを紹介します」をテーマに、11セクションが普段行っている事故防止対策をポスターにして展示しました。職員は、患者さんやご家族の目線に立って表現することの難しさと、初めての取り組みに対して戸惑いながら準備を行いました。患者さんご家族から寄せられたご意見や感想に励まされ、また、医療者にとっては当たり前になっていることが、患者さんにとってはそうではないこと、患者さんに医療に参加してもらうためには患者さんに見えない部分を可視化していくことが必要であるということ学び、医療安全推進週間の意義を感じることができました。

第2回目の昨年は、11月21日～12月2日の2週間を医療安全推進週間として、各部門12セクションがポスター展示を行いました(表)。第2回目は、取り組みの紹介にとどまらず、患者さんと一緒に安全のためにどのようなことをしていきたいか具体的に表現するようにしました。期間中は、多くの方に立ち止まって見ていただき、中にはメモにとっている方もいらっしゃいました。患者さんからのアンケートには、「役に立つ情報だった」「チームで取り組んでいることがわかって安心した」といった感想や、ご自身の体験から改善してほしいことなどのご意見をいただきました。ご意見から、日ごろ、自分たちがしているつもりでも患者さんには伝わっていなかったことに気付かされたり、患者さんが何を求めているのか、改めて考えることができる貴重な機会になりました。自分たちの活動を伝えるこの取り組みは、一方では自分たちに行動に対して、患者さんから評価を受けるということであり、医療安全に対

する姿勢を見直し、意識を高めるきっかけになったと考えています。

がんセンターの医療安全推進週間は、始まったばかりで、患者さんご家族、職員の中においても、認知度は極めて低いのが実態です。しかし、この医療安全推進週間は、我々職員が気づかない危険な部分や、ヒヤリとした患者さんの経験などを、患者さんご家族の視点で意見を出しやすい環境作りになることや、また、職員が患者とのパートナーシップに関心を高め、患者さんご家族とともに安全を最優先にした、安心して納得のいく医療が実践できるようにするための取り組みとして継続していきたいと考えています。平成24年度医療安全推進週間は11月19日～11月30日に予定しています。多くの皆様にごがんセンターの取り組みを見ていただけるように努力したいと思います。

*** 平成23年度 医療安全推進週間の展示内容 ***

患者確認の方法
MR Iは大きな磁石
安全な輸血
調剤業務における医療安全
治療計画時の照射線量計算の安全確認
抗がん剤点滴の受け方
手術室に入るちょっと前に
当院の感染対策の取り組み
医療ガスの安全
イン知デント通信(安全通信)
人工肛門造設患者への安全安心なケアを提供するために
標準予防策とは

当院の感染対策の取り組み

がんセンター院内感染対策の指針より抜粋(当院HPに掲載)

当センターのすべての患者さん、職員を院内感染から守るため、適切な感染防護対策に取り組み、安全な医療環境を整備するために本指針を定めます。

この指針に則り、院内感染対策チーム(ICT)が活動しています

活動の一部をご紹介します

週1回の院内巡回

- 環境整備や手洗いの確認
- 検査室との連携をとりながら感染発生状況を把握

職員の感染対策研修を実施

- 今年度は5つの研修企画をし、計14回の研修会を実施
- テーマは、感染劇の管理・食中毒予防・インフルエンザについて、等を取り上げました

感染対策・治療に対する相談や指導

- 感染の拡がりを防ぐための対策について
- 抗菌剤の使用についてのアドバイスや提言

今年度のICTメンバーです
計14名で活動しています



研修会の様子



病室入口に設置してあるアルコール手指消毒剤です。職員だけでなく、患者さんやお見舞いの方にも積極的に使っていただきたいと思っています。

1回使用量は1プッシュ(約3mlです)



＝公開講座・講演会＝

第3回市民公開講座「がんを知る」
 “大腸がん 肝臓がん” 検査、
 治療の上手な受け方選び方
 ～最新事情を現場から～

平成24年1月14日(土)日石横浜ホールにおいて、第3回市民公開講座「がんを知る」"大腸がん 肝臓がん" 検査、治療の上手な受け方選び方 ～最新事情を現場から～を開催いたしました。当日は寒い中350名を超える方々にご参加いただき、場内より質問をいただくなど活気あふれる講座となりました。

第一部では大腸がんについて、赤池副院長、消化器内科高木先生、消化器外科塩澤先生より大腸がんの現状や発生原因や予防方法などの基礎知識を踏まえて、治療法として普及してきた内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)をはじめとした内視鏡治療、小さな傷でがんを取り除く腹腔鏡下手術等について講演を行いました。

第二部では肝臓がんについて、消化器内科大川先生、消化器内科上野先生、消化器外科森永先生より原因や検査、治療方法などの基礎知識を踏まえて、今後導入予定の重粒子線治療をはじめとした放射線治療を含め、肝細胞癌の治療の選択について講演を行いました。

第三部では大腸内視鏡検査と治療を受けるに際しての注意点やアドバイス、検査方法について看護師の清水さん、中野さんが講演を行いました。

終了後のアンケートでは、講演内容について「治療について分かりやすく説明していただけてとても参考になった」「検診の重要性、早期発見が大切だと思った」「セカンドオピニオンが重要だと感じた」などのご意見をいただきました。

また、がんの臨床研究のいっそうの促進と、がん患者さんに適切な情報を提供することを目的に活動しているがん臨床研究・情報機構や平成25年11月に開院を目指し工事が進んでいる新がんセンターを紹介したパネル展示も沢山の方にご覧いただくことができました。

公演で使用したレジュメや当日の写真、アンケート結果等は当センターHPに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。今後とも現場からのがんに関するさまざまな情報を多くの県民の皆さんに提供できるよう、この市民講座を定期的で開催してまいります。次回もぜひご期待ください。(総務課)



(会場の様子)

「平成23年度 重粒子線治療講演会」を開催しました

平成24年2月12日に「平成23年度 重粒子線治療講演会」をはまぎんホールヴィアマーレ(横浜市西区)において開催しました。当センターでは平成27年12月の治療開始を目標に重粒子線治療施設の整備を進めています。集患に向けての普及・啓発活動の一環として、22年度は医療従事者向けの講演会を開催しましたが、23年度は一般県民の方を対象とし、(独)放射線医学総合研究所重粒子医科学センター長の鎌田 正先生をお招きして開催いたしました。



当日は、開会のご挨拶として古尾谷光男神奈川県副知事が重粒子線治療への期待について述べられました。つづいて、中山優子放射線腫瘍科部長兼重粒子線治療施設整備室長から当センターの重粒子線治療施設「i-ROCK」の特徴などについて紹介した後、鎌田先生からは、「からだにやさしいがん治療 - 重粒子線がん治療の新たな展開と将来展望」と題したご講演をいただきました。講演では、重粒子線治療の特徴やこれまでの治療成果、最新の技術などについて、画像や動画を交えながらご説明いただき、一般の方にとっても大変分かりやすい内容でした。講演後、治療にかかる費用や保険適用の見込み、陽子線治療との違い、治療を希望する場合はどのようにしたらよいかなど、参加者の方から募集した質問に鎌田先生からお答えいただきました。

参加者のアンケート結果からもほとんどの方から非常に良い講演会であったと評価いただき、「参加してよかった」「講演内容が分かりやすかった」との感想をいただきました。そのほか、「一日も早い治療開始を」、「保険適用に早くなって欲しい」といった内容が多く見受けられました。

本講演会は、募集開始直後から多くの方からのお問合せをいただき、当日は約300名の方にご参加いただきました。アンケート結果やお問合せの電話からは、県民の方の重粒子線治療に対する大きな期待を感じました。重粒子治療施設整備室では、そうした多くの方の期待を受け、治療開始に向けて引き続き治療施設の整備に全力で取り組んでいくとともに、今後も継続して医療従事者の方、そして県民の方々に対する普及・啓発活動に取り組んでまいります。(新がんセンター総合整備室)

がん診療連携拠点病院の 院内がん登録データから見えるもの

企画情報部長 野田 和正

がん診療連携拠点病院で毎年やらなければならないことの一つとして院内がん登録があります。これは、がん患者さんの受診経緯やがんの種類、病期、治療内容（手術、抗がん剤、放射線他）などの情報を集積・登録し、予後調査を行なって、治療成績の向上を目指すものです。2008年から開始されましたが、これらの情報をもとに、がん治療の成績向上やがん医療の均てん化を評価し、地域・国レベルでの予後の改善を目指します。国はこれらの情報をもとにして今後のがん医療政策を検討する端緒となります。

2008年の全国の院内がん登録データの中から興味深いことがいくつか垣間見えてきますが、都道府県単位の情報の中から、南関東のがん診療連携拠点病院におけるがん患者さんの受療動向を見てみました。新たにこの年にがんと診断された患者さんの集計であり、それ以前のケースは含まれていません。

図1は、各都県のがん診療連携拠点病院側から見て、どの都県民のがん患者さんかを示しています。当然のこととして、居住している地元都県の拠点病院を受診している割合が多いのですが、都県外からの患者さんの受療率は、東京都が40%と高く、千葉県では14%、神

奈川県では8%、埼玉県では5%となっています。そのうち東京都を見ると、内訳は埼玉県からが11%、神奈川県からが8%、千葉県からが7%となっています。

図2は、逆にある都県民のがん患者さんが、どの都県の拠点病院を受診したかをみたものです。埼玉県民のがん患者さんの40%は県外の拠点病院を受診しており、そのうち23%は東京都ということです。神奈川県では20%が県外を受診し、そのうち14%が東京都、千葉県では15%が県外の拠点病院を受診していることを示しています。この図には出していませんが、茨城県も県外施設を受診率が高くなっています。

関東圏は地形が平坦で、大きな川を除けば都県境が地形に関係なく引かれているところに、鉄道・道路等の交通アクセスが良いことが、受療圏域の広がりに関係していると考えられます。加えて東京都ではがん診療に関して実力・名声ともに高い拠点病院が集中しており、東京都の医療機関にがん患者さんの受診集中につながっていると考えられます。

まだ、治療成績の指標である5年生存率を算出するまでには至っていませんが、近い将来には施設ごとの治療成績が公表されます。患者さんにとってはどの施設を受診するか決める参考になりますが、拠点病院にとっては自施設の強みと弱みを把握し、治療成績の向上に向けて傾注すべきことが見えてきます。なお、この集計はがん診療連携拠点病院のみのデータであり、拠点病院ではない大規模病院の情報がないことに留意しておく必要があります。今後改善されるべき課題と言えます。

図1. 南関東4都県のがん診療連携拠点病院を受診したがん患者の居住都道府県(2008年)



図2. 南関東4都県居住がん患者が受診したがん診療連携拠点病院の所在都道府県



＊ 褥瘡対策チームの活動

皮膚・排泄ケア認定看護師
関宣明・舛田佳子・平澤真弓



昨年10月より褥瘡対策チームによる褥瘡回診を行っています。2012年4月からは、毎週月曜日の15時から16時まで、医師、皮膚・排泄ケア認定看護師と褥瘡管理者が連携し回診を行っています。チームミーティングで患者の情報を共有ののち、褥瘡を保有している患者のベッドサイドで褥瘡の状態を診察しています。1回の褥瘡回診で、3 - 4名の患者を診察しています。ケア方法や薬剤・創傷被覆材の選択、体圧分散寝具の選択などチームで話し合いより良いケアを提供できるようにしています。また、病棟看護師が予防ケアや局所ケアの適切なアセスメントできるように、教育的な関わりを心がけています。

院内の褥瘡発生率は、全国平均は2%に対し1%以下で推移しており、褥瘡保有患者は少ないといえます。褥瘡回診は、褥瘡発生予防に効率よく効果的な活動の1つであると考えます。褥瘡対策チームは、今後褥瘡対策の中心的な役割を果たし、医療スタッフへの褥瘡対策の啓蒙活動を行い、褥瘡発生ゼロを目指します。



編

集後記

新年度となり、ともに働く職員が増えました。患者満足度調査ではまずまずの評価ですが、新病院の竣工後には解決できるハード面の課題はあっても、人が人を診るという医療の中では、職員一人ひとりの課題発見と解決に向けての意識を高めることが、県民への利益還元という実りにつながるのではないのでしょうか。4年弱先の重粒子線治療装置はひとまず置くとして、足の便の問題はありますが神奈川県民から頼られるがんセンターとして、東京都に流れているがん患者さんをひき(惹き)つけることができるような病院でありたいものです。種々の面での職員の活動ががんセンターの評価を高めることにつながっていくことを期待します。(企画情報部長 野田和正)



がんセンターから辛うじて見えた金環日食(2012.5.21 7:36)

がん出張(出前)講座のご案内



神奈川県立がんセンターでは、院内で毎週開催している「がん臨床講座」だけでなく、ご希望があれば、病院や診療所、医師会などへ、出張(出前)講座も行うことにしております。「がん臨床講座の演題」をはじめとして、ご要望があれば対応もさせていただくことも可能です。費用については当院で負担いたします。少人数でもかまいませんので、気兼ねなく声をおかけください。連絡先は当センター企画調査室(電話:045-391-5761 内線2510)です。

なお、「がん臨床講座」についてはホームページをご覧ください。<http://kcch.kanagawa-pho.jp/concerned/lecture.html>

ボランティア会ランパスによる患者さんのための 6月木曜ミニコンサート予定表

時間: PM1:30 ~ 2:00 (30分前後)



6月7日	植木 朋子	声楽
6月14日	小池 薫	シャンソン
6月21日	中嶋 祐子	ピアノ
	中嶋 温子	ピアノ
6月28日	江口 正之	声楽



平成23年度1月・2月・3月

1日平均患者数

(単位:人)

区分	1月	2月	3月
入院	272.5	310.9	320.0
外来	654.6	677.1	707.3

編集・発行: 神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 0815 横浜市旭区中尾1-1-2

TEL 045-391-5761 (内線2510)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>